

「しぶとく行こうぜ」



素数ゼミに悩ませられるヤンキーズ松井(素数ゼミの謎より)

近くの公園で今年初めて鳴いたのはヒグラシでした。例年ですとアブラゼミが7月始に第一声、それが今年は8月に入ってからです。その上家内に言わせると今年のアブラゼミの鳴き声が弱々しいとのこと。

ゼミは6年間地中で暮らし(6年周期)、最後の数日間地上に出、メスゼミに愛を求め命の限り叫び続けるのです。ところが北アメリカ東部には地中に13、17年地中で生活するゼミがいるのです。13年周期、17年周期で羽化し地上に大発生する素数ゼミです。氷河期に培った、交雑が不得意で13、17年を今でも頑なに守っているゼミです。

仮に、今ここに3種ゼミが地上に現れたとしましょう。10年ゼミ13年ゼミ15年ゼミとします。10年

ゼミの次のその次の・・・羽化は10, 20, 30, 40, 50, 60, 70, 80, 90, 100年後です、13(素数)年ゼミ羽化は13, 26, 39, 52, 65, 78, 91年後です。15年ゼミの羽化は15, 30, 45, 60, 75, 90年後です。10年周期ゼミと15年周期ゼミは30、60年目後に出会い一部が交雑し、その数を少しずつ減らして行きます。13年ゼミは地上に出ても、他の周期ゼミと逢うことなく、仲間内だけで交わりその数を徐々に増やしていきます。算数で習った素数(13, 17)の面白さが主な原因のようです。

ワシントン州の一部の地域で、このゼミの声を聞くのは17年に一度です。人々はこの求愛の大合唱にブ・たまげるそうです。命をつなげるために、素数周期を意識し地上に出てくるのか、たまたま氷河期に培った偶然かわかりません。

ここ八王子駅南部5キロ地区のアブラゼミはこの暑さから逃れるためのその羽化時期を少し後にずらし始めたのかも。こんな話をがん友の中学の同級に話したら、素数ゼミのように「しぶとく行こうぜ」でした。

北岳61